

秋まき小麦ほ場の融雪材散布について

2月29日に降雪があったことから、積雪深は多くの地点で平年を上回る状況となっています(表1)。

土壌凍結は、昨年末まで積雪が少なかったことから、20~40cm程度凍結している状況にあります(帯広市ながいもほ場での調査結果)。

極端に早い融雪促進は凍害を助長しますので、極端に早い作業は行わず、表2にある目安日を参考に普段通りの作業に努めましょう。

表1 3月1日現在の積雪深 (各アメダス地点の値)

	帯広	帯広泉	芽室	上札内
積雪深	54 cm	71 cm	48 cm	84 cm
平年値	37 cm	平年値なし	57 cm	72 cm
平年比	146%	—	84%	117%

1 散布時期

平均気温が-3℃以上になる頃で、最高気温が0℃を越える日が続き、新たな降雪の予報がない時期に散布します。当管内では、3月9日~16日頃から散布作業を始める目安となります。

表2 日平均気温が-3℃以上となる日 (注: アメダス地点の平年値(1981~2010)より)

帯広	帯広泉	芽室	上札内	更別
3月8日	3月13日	3月13日	3月16日	3月15日

2 融雪材の選定

土壌 pH が低いほ場は炭カル入り融雪材、土壌 pH6.0 以上のほ場はアルカリ分を含まない融雪材を選びましょう。

表3 主な資材の使用例

資材名	散布量の目安
防散融雪材	20~40kg/10a
防散融雪炭カル	40~60kg/10a

3 融雪材散布上の注意

- ・ 散布後に20cm以上の積雪があった場合は、再散布が必要です。
- ・ 融雪水が停滞する場所は排水対策(溝切り)をしましょう。
- ・ 早すぎる融雪は凍害を招くことがありますので注意しましょう。

安全確認により農作業事故を防ぎましょう!